

見守る保育 藤森メソッド

講師

新宿せいが子ども園

園長 藤森平司氏

今、子どもに必要な保育の「考え方」と「環境」を学ぶ

保育環境セミナー



＜講師プロフィール＞

大学で建築学を学び、その後小学校教諭、保育園園長、子ども園園長の実践を経て、「見守る保育 藤森メソッド」を提唱する。また、欧米、アジア各国の保育施設を歴訪し、さらにメソッドを深める。また、中国、韓国、シンガポール、ドイツなどで講演、ドイツバイエルン州ミュンヘン教育局に15年にわたって訪問し、乳幼児教育についての情報交換を行う。現在、国内で500園あまり、海外で170園「藤森メソッド」を取り入れている。社会福祉法人 省我会理事長「保育環境研究所ギビングツリー」代表、「乳幼児STEM保育研究所」理事長

－主な著書 「やってあげる保育から見守る保育へ」「見守る保育」(学研)、「21世紀型保育のススメ」シリーズ1-5 「まなびのデザイン～「自立」と「人と関わる力」が育つ・見守る保育環境」、「保育の起源」(世界文化社)、「情報による子育て支援～コミュニティー戦略としての情報公開」(筒井書房)「HOIKU～Japanese Childcare Method」(ジェイキャスト) 他

「見守る保育 藤森メソッド」の提唱者 藤森平司先生は自身の実践から今の保育形態を構築しました。その実践のポイントは「子ども同士」「異年齢」「子ども主体」「チーム保育」「学びの園庭」の5つです。

「見守る保育」という言葉は、いろいろなところで一人歩きしてしまい、勘違いされることがあります。そこで提唱者である藤森先生から、直に理念とエビデンス、そして5つの重要ポイントを学びます。

こども同士の関わり・異年齢保育

子ども同士や異年齢での関わりの中で、子供たちは多くのことを学びます。そのための保育者としての役割、考え方を学びます。

子ども主体の保育

子ども主体の保育とは、自分で「考え」「選択」できると言うことです。それを実践するための考え方、そして具体的な方法を学びます。

チーム保育・学びの園庭

チームで保育することの重要性、藤森メソッドにおける園庭での活動の目的、大切にしたいことを学びます。

日時

6年11月10日(日) AM 10:15～11:45

会場

美咲「教育・保育研修センター」

(鶴岡市美咲町25-16 横山皮膚科の隣)

主催

社会福祉法人 恵愛会